

農政の動き 2015年2月7日～2月12日

◇エルニーニョ現象 春までに終息の見込み

気象庁は、南米ペルー沖の監視海域の海面水温が基準値より高くなるエルニーニョ現象について「終息に向かっているとみられる」と発表した。春までに終息し、夏までは「平常の状態が続く可能性と再び発生する可能性が同程度」と予測した。(9日)

◇安倍首相に国会決議の順守求める要請文

安倍晋三首相は、自民党の衛藤征士郎外交・経済連携本部長と官邸で会い、環太平洋連携協定(TPP)交渉について、米など農産物の重要5品目の保護を求める国会決議などの順守を求める要請文を受け取った。首相は「しっかり対応したい」と述べるにとどめた。(9日)

◇14年産モモの収穫量 10%増の1万2300ト

農林水産省は、2014年産モモの収穫量は前年産比10%増の1万2300トと発表した。結果樹面積は前年産並みの9850ヘクタールだったが、開花期の好天で着果数が増加し10ヘクタール当たり収量が10%増の1390キログラムとなった。都道府県別割合は、山梨県が34%、福島県が21%、長野県が12%の順で、3県の合計で全体の約7割を占める。(10日)

◇日・モンゴル両首相 EPAに署名

安倍晋三首相は、官邸でモンゴル国のチメド・サイハンビレグ首相と会談し、経済連携協定(EPA)に署名した。モンゴルは日本からの輸入の約96%を10年間で無税とし、日本はモンゴルからの輸入の100%を10年間で無税とする。なお、2012年実績でモンゴルから日本への輸入総額は約19億円で、このうち98%は鉱物資源や繊維衣料品、一般機械が占めている。(10日)

◇政府備蓄米買い入れ 予定数量の92.6%落札

農林水産省は、政府備蓄米の2015年産政府買い入れ入札結果(第2回、10日実施)を公表した。提示数量4万6747トに対し、落札数量は2万8198トだった。落札数量の合計は買い入れ予定数量25万トに対し、約92.6%となる23万1451トとなった。次回は24日の予定。(12日)

◇安倍首相TPP「いよいよ出口が見えてきた」

安倍晋三首相は、国会で施政方針演説を行い、「行動」と「改革の断行」がこの国会に求められていると強調。経済再生や復興、社会保障改革、地方創生、外交・安全保障など各分野で「戦後以来の大改革」を実行する決意を表明した。農業分野では、農家の所得を増やすために農協や農業委員会制度の大幅見直しを進める考えを主張し、「目指すは世界のマーケット」と述べ、農林水産物の輸出拡大を訴え

た。環太平洋連携協定（TPP）交渉は「いよいよ出口が見えてきた」とし、米国とともに交渉をリードし、早期妥結を目指すとした。（12日）